

多摩市立聖ヶ丘小学校長

高藤 浩

1 はじめに

一人ひとりの児童が未来に希望をもち、自信をもって生きていくためには、生きる力の3要素である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育む必要があります。

本校では、生きる力の各要素に応じた学校教育目標を「考える子」「助け合う子」「元気な子」の育成としています。

そのためには、教育活動を充実させ児童相互が、人と人とのつながり、関わりをもてるようにしていきたいと考えます。

令和7年度本校の学校経営として、児童一人ひとりが自他を尊重し、互いに力を合わせたり、支え合ったりすることに心地よさを感じられるよう、家庭・地域と連携・協働した教育を推進していきます。

そのためには、教員が元気に子供たちへの指導に当たることができるよう、校長として学校経営を進めます。元気な教員が、元気で健全な子供たちを育てることができると信じています。

保護者の皆様のご理解・ご協力をいただきますよう、よろしくお願いします。

「ごいっしょに」を合言葉にどうぞよろしくお願いします。

2 目指す学校・児童の姿

学校教育目標の達成に向けて、前記の学校経営上の課題解決を図り、以下の学校像・児童像の具現化を目指します。

(1) 目指す学校像

- 児童にとって、安心して楽しく学べる居場所としての学校
- 保護者にとって、児童を安心して通わせられる学校
- 地域にとって、児童の学びと成長を共に支えられる学校

(2) 目指す児童像

- 考える子（よく考えて工夫できる児童）
- 助け合う子（人と力を合わせることに喜びを感じる児童、人権尊重の精神に満ちた児童）
- 元気な子（心身共に健康で元気な児童）

3 学校教育目標の達成に向けた主な取組

学校教育目標		
人権尊重の精神に基づき、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童を育成する。 ○考える子 ○助け合う子 ○元気な子		
目指す学校像（学校経営ビジョン）		
教職員は、児童に温かく、互いに協力し合って、以下の学校の実現を目指す。 ○児童にとって、安心して楽しく学べる居場所としての学校 ○保護者にとって、児童を安心して通わせられる学校 ○地域にとって、児童の学びと成長を共に支えられる学校		
目指す児童像		
○よく考えて工夫できる児童（考える子） ○人と力を合わせることに喜びを感じる児童、人権尊重の精神に満ちた児童（助け合う子） ○心身共に健康で元気な児童（元気な子）		
学校教育目標の具現化に向けた主な取組		
考える子（確かな学力）	助け合う子（豊かな心）	元気な子（健やかな体）
○分かる・できる・楽しい授業 ・めあての提示と振り返りの実施 ・学習評価を起点とした授業改善 ・問題解決的な学習の充実 ・考える・工夫する場面の設定 ○基礎学力の定着 ・一人一台端末を活用したベーシックタイムや、地域未来塾の実施 ○OSDGs を踏まえた ESD の充実 ・生活科や総合的な学習の時間を中心とした ESD の取組充実 ・金管バンドや地域清掃等による地域貢献と町づくりへの参画 ・特別支援学校や国内外のユネスコスクールとの交流の実施 ・子ども未来会議への取組 ○読書活動の推進 ・朝読書や保護者による読み聞かせ等を通じた豊かな語彙力や想像力、表現意欲の向上	○生きた道徳教育、特別支援教育 ・心に響き、日常生活に生きる道徳教育の推進 ・特別支援教室「つばさ」担任の専門性を生かした指導法工夫 ・スクールカウンセラーと連携した心理面の把握と心のケア ○生活指導の徹底 ・月1回のいじめ対策委員会、週1回の生活指導朝会（いじめ防止推進委員会）による情報・行動連携の徹底 ・確かな児童理解に基づく予防的・組織的な対応の充実 ・不登校対策委員会による、組織的、計画的な児童への対応 ○特別活動の充実 ・学校行事、異年齢集団による活動、委員会活動等を通じた自己有用感・自己肯定感の醸成 ・入学段階でのスタートカリキュラムの実施と生活習慣の確立	○学校 2020 レガシーの取組推進 ・一学期一取組の実施 【主な取組】 ヒジリンピック 体力向上週間 なわとび週間 持久走週間 ○運動習慣の定着 ・休み時間の外遊びの奨励 ・近隣大学、スポーツ関係機関等との連携によるスポーツ体験活動の実施 ○健康・安全教育の推進 ・保健学習や学級活動等を通じた感染症や防災、食に関する理解促進と、偏見や差別の防止
上記の取組を支える環境の充実		
○コミュニティ・スクール ・学校運営協議会と地域学校働本部を両輪とした地域連携 ○一人1台端末 ・一人一台端末を活用した教育活動の充実と情報活用能力の育成		